

決議 23-34 の杞憂 2

炉辺談話 396 において記載したように、元 RI 副会長ビル・サージアントとエド・フタ事務総長が社会奉仕に関する 1923 年の声明が、社会奉仕の理念や国際ロータリーやクラブの方針を必ずしも正確に説明していないように思われるので、ロータリー章典と手続要覧の将来の版からこの声明を削除するように提案しました。

これに対して 2008 年 1 月に開催された国際ロータリー理事会は、ロータリー章典の 1.120. に歴史的文献という項目を新たに設けて、

-
1. 現在の方針や手続きに加えて、ロータリアンにとって歴史的な価値を持つ過去の RI 理事会や国際大会の決定や声明がある。このような決定や声明は、現在の RI の方針を表すものではないが、歴史的な意味合いからロータリアンやロータリークラブによって参考になるものである。事務総長は、ロータリアンにとって歴史的な価値があると思われる、すべての過去の方針、手続き、および声明のリストを保存するように努力しなければならない。
 2. 将来版を発行するにあたって手続要覧に同様な声明を含めるように事務総長に要望する。
-

という文章を規定することを決定しました。

しかし、2008 年 6 月の発表されたロータリー章典からは決議 23-34 は完全に抹消されており、歴史的に貴重なドキュメントとして別途収録するという決定も守られていないことは既にお話しした通りです。

その後、つい先日「ロータリー章典 11 月」が発表されましたが、2008 年 1 月の RI 理事会で決定したはずの「1.120. 歴史的文献」という項目はどこを探しても見当たりません。

その代わりに「8.040.2. 1923 年の社会奉仕に関する声明」という項目が新設されて、「理事会は、歴史的な価値を考慮して手続要覧の将来版の発行に当たって社会奉仕に関する 1923 年の声明を含めることを事務総長に要請した。(2008 年 6 月 RI 理事会)」という記載が加わりました。

8.040.2. 1923 Statement on Community Service

The Board has requested the general secretary to include the 1923 Statement on Community Service in future editions of the Manual of Procedure because of its historical value. (June 2008 Mtg., Bd.)

理事会は総論の中で、歴史的な価値を持つ過去の RI 理事会や国際大会の決定や声明を保存するように決定したにもかかわらず、現実のロータリー章典では総論ではなく今後発行される手続要覧の社会奉仕の項目に、決議 23-34 を含めることを要請したということになります。

ということで、現在のロータリー章典には「1923 年の社会奉仕に関する声明」という言葉だけが残ったものの決議 23-34 の本文は完全に姿を消してしまい、現時点では歴史的に貴重な文献という項目は、

RI の諸規約、公式文献、ウェブサイトのどこを見ても見当たりません。かつて道徳律が公式文献が排除され、なんとか道徳律という言葉だけが国際ロータリー細則 16 条に残ったものの、やがて道徳律という言葉そのものも消えていったことを思い出し、決議 23-34 も同様な経緯をたどりはしないかと心配しています。「手続要覧に 1923 年の声明を含めることを事務総長に要請する。」という表現も引っ掛かります。RI における最高の意思決定機関である

RI 理事会が、事務職員の長に過ぎない事務総長に要請するのはいささか筋違いで、これは指示ないしは命令すべきでしょう。ボランティアとして奉仕しているロータリアンと給料をもらって働いている事務総長とは、立場の違いを明確にする必要があります。さらにこの決議 23-34 を削除しようという提案をだした張本人の一人が事務総長です

から、理事会からの要請を無視して 2010 年の手続要覧から決議 23-34 を削除する可能性は否定できないと考えるのは果たして杞憂に過ぎないでしょうか。

なお「ロータリー章典 11 月」についての情報をいち早くお知らせいただいた前橋 RC の本田会員に感謝申し上げます。

2008 年 9 月 8 日